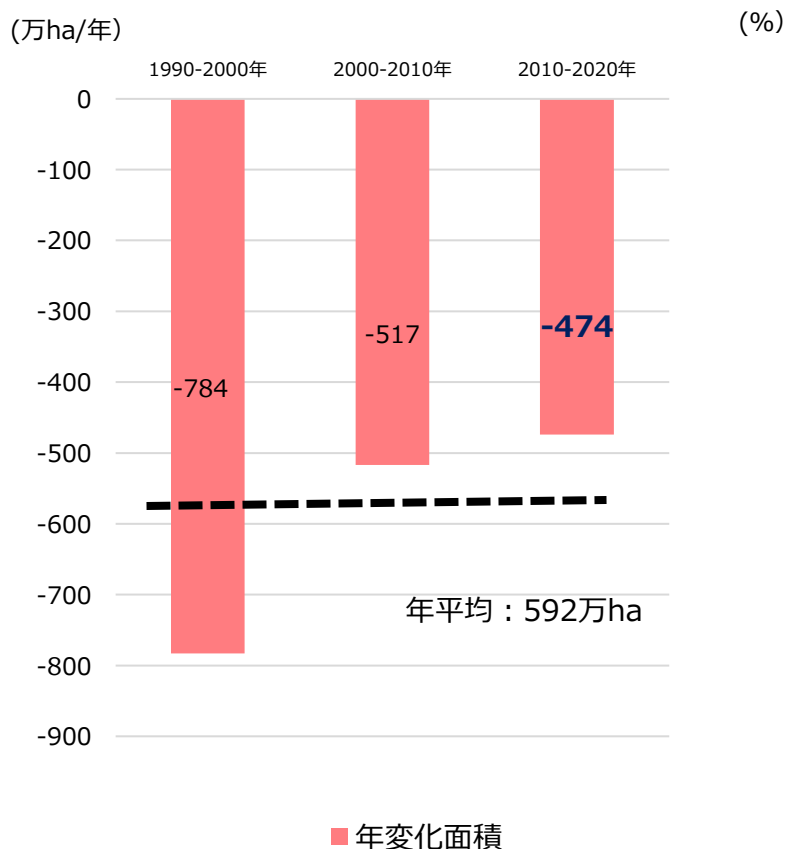


世界の森林の現況及び森林減少・劣化の要因

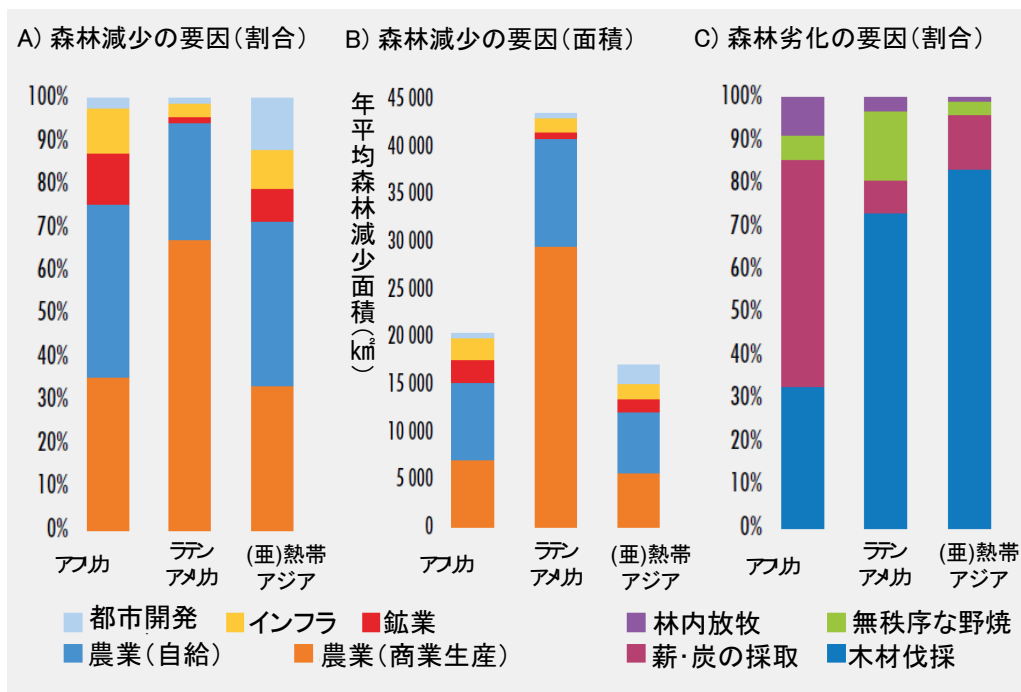
- FAO「世界森林資源評価2020」によると、世界には約40億haの森林があるが、1990年から2020年までの30年間に年平均で約600万haが減少。森林減少の速度は改善しつつあるが、アフリカや南米等の熱帯地域を中心に依然として高い速度で減少。
- FAO「世界森林白書2020」では、熱帯地域における森林減少の7割が農地への転用（商業生産40%、自給33%）に起因するなど農地開発が森林の減少の大きな要因（driver）であることを指摘。

■ 世界の森林面積の変化（1990-2020）



■ 各地の森林減少・劣化の要因（2000-2010年）

※ 森林減少：森林の土地利用転換等による森林面積の減少
森林劣化：天然林の過剰な抜き切り等による森林の質の劣化



出典：FAO「State of the World's Forestry 2020」、Hosonuma et al (2012). An assessment of deforestation and forest degradation drivers in developing countries. *Environmental Research Letters*, 7(4):

REDD+ (途上国の森林減少・劣化に由来する排出の削減等) の概要と我が国の取組

- 森林は大量の温室効果ガスを貯蔵しており、その減少・劣化による排出量は世界の温室効果ガスの総排出量の約1割。
- REDD+とは、持続可能な森林管理や適切な森林保全を通じて途上国における森林の減少や劣化を抑制し、温室効果ガスの排出削減や吸収増加を促進させる気候変動緩和策。
- 国連気候変動枠組条約のCOP21では、我が国も積極的に交渉に参画し、REDD+の実施・支援の奨励を「パリ協定」に位置づけることに貢献。

■ 森林減少・劣化の主な要因

- ・農地開発
- ・短周期の移動耕作 (焼畑)
- ・大規模な森林火災
- ・違法及び過剰伐採

等



■ 具体的な対策

<適切な森林管理>

- ・土地利用区分の明確化
- ・火災や違法伐採のパトロール
- ・森林伐採許可の制限
- ・森林の造成・再生等

<代替生計手段の提供>

- ・非木材林産物の商品化
- ・アグロフォレストリー等



途上国の
森林減少・
劣化を抑制
し、気候変
動の緩和に
貢献

■ 我が国のREDD+活動推進の枠組

- ✓ 気候変動に関連する基金(緑の気候基金(GCF)等)・国際機関への資金拠出
- ✓ JICAの技術協力プロジェクト
- ✓ 二国間クレジット制度 (JCM : Joint Crediting Mechanism)
- ✓ 林野庁補助事業 等



REDD+ : Reducing Emissions from Deforestation and Forest Degradation in Developing Countries; and the role of conservation, sustainable management of forests and enhancement of forest carbon stocks in developing countries (; and以下が「+」に相当)

排出量

森林参照排出レベル
(排出量のトレンドから将来の排出量を予測)

実績排出量

排出削減量

対策後の排出量

排出量の
モニタリング

森林保全活動
(対策)開始

評価時点

時間

